

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100545	
法人名	社会福祉法人 ひかりの里	
事業所名	グループホーム めだかの学校 高畑	
所在地	山梨県甲府市高畑2丁目16-11	
自己評価作成日	令和2年2月15日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年3月27日(土)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設が開所し4年目ですが、初年度職員全員で決めた理念「笑顔あふれるここに来て良かったと思えるホームにする。」という理念に基づいて、利用者様が安心して生活していただけるよう、また、第2の家(ホーム)になれるよう日々努力しています。コロナ禍の中、外に出る機会がほとんどありませんでしたが、例年ですと、桜花見、紅葉狩り、法人運動会や法人夏祭り等、グループごとに分かれての外出等、利用者様に季節を感じていただけるような外出も積極的にいたり、利用者様ご家族との交流も考え、敬老会、クリスマス会等を設け多くのご家族にもご参加いただいています。利用者様の誕生日には、食べたいおやつを聞いて、職員や利用者様と一緒に手作りしたおやつで誕生会をしています。また、季節ごとの野菜も育て収穫し、ご家族ともども家庭的な雰囲気づくりを大切にしたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は甲府市の南西に位置し、周辺には食堂や住宅が点在する静かな環境にあり、木造2階建ての2ユニットである。開所後4年が経過し、この間自治会や住民との関係づくりに力を入れ、清掃作業やイベント等にも積極的に参加しながら地域の一員として連携している。初年度から掲げている「笑顔あふれるここに来て良かったと思えるホームにする」を事業所の理念として、利用者地域との繋がりがりや季節をととしての外出や家族との交流の機会を持つことで利用者の日々の生活を笑顔あふれるものにしていく。コロナ禍で外出や面会の自粛が続く中、車による花見をしたり電話や事業所便り等で家族との繋がりを継続し、利用者の生活が豊かになるように工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように(コロナ禍以前) 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が(コロナ禍以前) 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所4年目なので、初年度と同様に、「笑顔あふれるここに来て良かったと思えるホームにする」という一貫した理念に基づいて、職員一同再確認を行い、家庭的な雰囲気のあるホームを目指し、ケアにあっている。	開所4年目なので、初年度と同様に、「笑顔あふれるここに来て良かったと思えるホームにする」という一貫した理念に基づいて、職員一同再確認を行い、家庭的な雰囲気のあるホームを目指し、ケアにあっている。	年度当初、これまでの理念を継続することを再確認した。利用者が筆で書いた「笑顔あふれるここに来て良かったと思えるホームにする」という理念をフロアに掲げて、常に職員の目に触れ意識できるようにし、職員会議では理念を踏まえたケアの実践について協議しながら職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の清掃、沼川の清掃等に職員が参加し、例年ですと、自治会の花見、運動会等のイベントにも参加、地域の防災訓練にも参加している。	地域の清掃、沼川の清掃等に職員が参加し、例年ですと、自治会の花見、運動会等のイベントにも参加、地域の防災訓練にも参加している。	自治会に加入し、清掃やイベント、防災訓練にも参加している。運営推進会議に自治会長や民生委員が参加している。地域の情報を得ながら意見交換している。防災訓練では事業所近くが避難場所のため利用者も参加している。小学生とも挨拶を交わす等地域の一人として生活している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年ですと、地域の行事に積極的に参加し、めだかの学校高畑があることを地域の方々に広く知っていただき、認知症等の病気のご理解を頂けるよう話をしている。	例年ですと、地域の行事に積極的に参加し、めだかの学校高畑があることを地域の方々に広く知っていただき、認知症等の病気のご理解を頂けるよう話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、実施行事や利用状況などを報告し、当施設での取り組み、マニュアル等の説明をして理解をいただき、利用者や出席者の意見を聞き、職員会議にて職員に報告し、サービスに反映できるように努力している。本年は、コロナ禍のため、書類のやり取りにての開催としている。	運営推進会議では、実施行事や利用状況などを報告し、当施設での取り組み、マニュアル等の説明をして理解をいただき、利用者や出席者の意見を聞き、職員会議にて職員に報告し、サービスに反映できるように努力している。本年は、コロナ禍のため、書類のやり取りにての開催としている。	2か月に1回開催し事業所の利用状況やヒヤリハット事例等を報告し意見交換しているが、コロナ禍で昨年は書面での報告とし、意見や要望がある場合は用紙に記入してもらい意見交換した。内容や協議結果は運営推進会議のメンバーに送付し共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題点があった場合には、電話にて相談や連絡を行っている。介護相談員が来所され、利用者の話、相談を聞いてくれる。	問題点があった場合には、電話にて相談や連絡を行っている。介護相談員が来所され、利用者の話、相談を聞いてくれる。	運営推進会議の報告を行い、事業所の抱えている課題がある時は対応等について相談し、助言を得ている。介護相談員の派遣を依頼し、来訪がある時は利用者が楽しみにしている。コロナ禍のため現在は中断している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の研修にて、身体拘束についての研修を実施している。身体拘束委員会を設置し職員にも周知徹底をはかっている。また、一歩踏み込んだ取り組みとして、スピーチロックの根絶を目指して努力している。	法人全体の研修にて、身体拘束についての研修を実施している。身体拘束委員会を設置し職員にも周知徹底をはかっている。また、一歩踏み込んだ取り組みとして、スピーチロックの根絶を目指して努力している。	身体拘束委員会を3か月に1回開催し、協議内容は職員会議で報告したり、会議録を回覧している。県下7事業所の新規採用者や経年数が少ない職員を対象として年1回法人の全体研修を実施している。事業所の研修は年10回程度実施し、スピーチロック防止に重点をおいたケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者一人一人の尊厳を大切にし、声掛け一つでも虐待につながることを意識し、職員同士でも不適切な介護がなかったかを指摘し合い、丁寧な言葉使いをするように心がけている。	利用者一人一人の尊厳を大切にし、声掛け一つでも虐待につながることを意識し、職員同士でも不適切な介護がなかったかを指摘し合い、丁寧な言葉使いをするように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について、新規の職員もおり、全職員が周知しているとはいえないので、法人をどうしての研修や当施設でも学ぶ場を設けてゆく。ご家族等の関係者が来所の際に要望がある場合は、相談等に応じてゆく。	成年後見人制度について、新規の職員もおり、全職員が周知しているとはいえないので、法人をどうしての研修や当施設でも学ぶ場を設けてゆく。ご家族等の関係者が来所の際に要望がある場合は、相談等に応じてゆく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書と重要事項説明書にて説明をし、その場で疑問点があれば、納得、理解されるまで説明を行っている。また、契約後も同様に疑問点があれば、その都度、納得、理解されるまで対応している。	契約時、契約書と重要事項説明書にて説明をし、その場で疑問点があれば、納得、理解されるまで説明を行っている。また、契約後も同様に疑問点があれば、その都度、納得、理解されるまで対応している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、面会時や運営推進会議でも意見や要望がでた際には、職員会議にて計り、職員全員がご意見を共有し、改善や反映ができるように努めている。施設の行事の際には、ご家族も出席いただき日頃の様子を見てもらう機会にしている。	意見箱を設置し、面会時や運営推進会議でも意見や要望がでた際には、職員会議にて計り、職員全員がご意見を共有し、改善や反映ができるように努めている。	意見箱の設置とともに日常的な面会や家族が参加するイベント等をおして利用者や家族の意見を聴くようにしている。運営推進会議で出された意見や要望には早急に対応し反映に努めている。コロナ禍で家族の来所に制限があるので、事業所便りや電話で利用者の様子を伝えたり、家族との情報交換を心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務や休憩時間、職員会議等に話し、意見や思いを聞くようにしている。色々な改善点や意見が出やすいような雰囲気職場、人間関係を築くよう心掛けている。また、個人面談をして、意見や提案が可能なものは、仕事に反映できるように取り入れている。	日々の業務や休憩時間、職員会議等に話し、意見や思いを聞くようにしている。色々な改善点や意見が出やすいような雰囲気職場、人間関係を築くよう心掛けている。また、個人面談をして、意見や提案が可能なものは、仕事に反映できるように取り入れている。	日常業務や職員会議をおして職員の意見や思いを聴くようにしている。協議が必要な場合は職員会議で検討し、対策を講じたり内容を共有している。必要に応じて個人面接を行い業務改善や職場環境を整える努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力が認められる、職場の環境作りを留意している。また、職員の勤務が可能な条件や保育、家庭事情等を考慮して、勤務表を作るように努力をしている。	職員の努力が認められる、職場の環境作りを留意している。また、職員の勤務が可能な条件や保育、家庭事情等を考慮して、勤務表を作るように努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年5回の法人の研修や月に1回の職員研修にできるだけ参加し、知識や技術の向上に努めている。参加できない職員には、資料を持ち帰り読んでもらい知識の共有を図っている。	年5回の法人の研修や月に1回の職員研修にできるだけ参加し、知識や技術の向上に努めている。参加できない職員には、資料を持ち帰り読んでもらい知識の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にいくつかの施設があるので、交流を行っている。他施設の研修の受け入れもして、意見、知識の交流を図っている。	法人内にいくつかの施設があるので、交流を行っている。他施設の研修の受け入れもして、意見、知識の交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を実施し、ご本人やご家族の思い、不安や今までの生活歴、接し方等を聞き、ケアに活かして安心して頂けるような対応、声掛けを心掛けている。	入居前に面談を実施し、ご本人やご家族の思い、不安や今までの生活歴、接し方等を聞き、ケアに活かして安心して頂けるような対応、声掛けを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から密に連絡や話し合いをして、不安な点、困っている事があれば伺い、安心して頂けるように努めている。	入所前から密に連絡や話し合いをして、不安な点、困っている事があれば伺い、安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の要望や不安点をお聞きし、必要としているサービスに近い法人内の施設の説明をし、安心して利用して頂けるように対応している。	本人やご家族の要望や不安点をお聞きし、必要としているサービスに近い法人内の施設の説明をし、安心して利用して頂けるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、一緒に生活をし、家事活動を共に行うことで、お互いに教えあい、支え合うことができる関係を築くよに努力をしている。	家庭的な雰囲気の中で、一緒に生活をし、家事活動を共に行うことで、お互いに教えあい、支え合うことができる関係を築くよに努力をしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは、来所時や、日頃電話にて利用者様の状態等を連絡したり、毎月高畑の施設新聞をお送りして利用者様の様子をお伝えしている。利用者様自身が不安な点がありご家族と話したい希望があれば、ご本人様に電話をかけてもらうなどの対応をしている。	ご家族とは、来所時や、日頃電話にて利用者様の状態等を連絡したり、毎月高畑の施設新聞をお送りして利用者様の様子をお伝えしている。利用者様自身が不安な点がありご家族と話したい希望があれば、ご本人様に電話をかけてもらうなどの対応をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	例年ですと、ご家族対応にてお墓詣り、法事などに出かけられたりしている。また、ご家族にお聞きして、馴染みの場所や生まれた場所などを、個別外出などにより、訪れている。また、教え子の面会もあり、利用者との関係を大切にしている。	例年ですと、ご家族対応にてお墓詣り、法事などに出かけられたりしている。また、ご家族にお聞きして、馴染みの場所や生まれた場所などを、個別外出などにより、訪れている。また、教え子の面会もあり、利用者との関係を大切にしている。	家族との墓参り、法事、外出等の機会があった他、利用者にとっての馴染みの場所に個別外出する取り組みを行っていたが現在はコロナ禍により外出は自粛している。面会の制限もあり来訪者がいない状況だが、家族の面会は感染防止対策を講じながら玄関入口のスペースを活用し短時間の面会を実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気の中、利用者様同士で助け合いながら家事活動をしたり、レクリエーションを行うことで和やかな関係が出来ている。また、孤立しないように話を聞き、職員が間に入るよう努めている。利用者の誕生会を実施し、リクエストのあったおやつを、他利用者と共に手作りし一緒に食べ祝う事で、いい関係を築くようにしている。	家庭的な雰囲気の中、利用者様同士で助け合いながら家事活動をしたり、レクリエーションを行うことで和やかな関係が出来ている。また、孤立しないように話を聞き、職員が間に入るよう努めている。利用者の誕生会を実施し、リクエストのあったおやつを、他利用者と共に手作りし一緒に食べ祝う事で、いい関係を築くようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約時よりグループホームにいられない状況になった場合には、法人内の施設を紹介できることや、入居後も、相談事や不安点をお聞きしている。	契約時よりグループホームにいられない状況になった場合には、法人内の施設を紹介できることや、入居後も、相談事や不安点をお聞きしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月のケアプランの更新時には、利用者様の思いや希望を再確認するとともに、日頃の行動や会話の中で利用者様の思いをくみ取れよう努めている。思いや希望を聞くことが困難な場合には、ご家族にも協力して頂いている。利用者様の得意なことを見つけ家事活動等に活かしている。	毎月のケアプランの更新時には、利用者様の思いや希望を再確認するとともに、日頃の行動や会話の中で利用者様の思いをくみ取れよう努めている。思いや希望を聞くことが困難な場合には、ご家族にも協力して頂いている。利用者様の得意なことを見つけ家事活動等に活かしている。	職員は、利用者との会話や日頃の行動から一人ひとりの思いや意向を把握し、申し送りや毎月の職員会議で意見交換しながらケアに反映できるように努めている。意向を把握するのが困難な場合は家族や関係者の協力を得ながら、利用者の意向を汲み取り、ケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、基本情報として、利用者様の生活歴や馴染みの場所や馴染みの習慣や日課などを用紙に書いて頂いている。また、ご本人の若い頃の様子をご家族にも密にお話をお伺いしている。	入居前に、基本情報として、利用者様の生活歴や馴染みの場所や馴染みの習慣や日課などを用紙に書いて頂いている。また、ご本人の若い頃の様子をご家族にも密にお話をお伺いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の今までの生活の習慣を大切にしつつ、一日の流れを把握し、当施設で実現できる習慣は提供している。その中で気づいた事は、職員同士で共有し維持するように努めている。また、その他にも色々な事をやって頂くように心掛けている。	一人一人の今までの生活の習慣を大切にしつつ、一日の流れを把握し、当施設で実現できる習慣は提供している。その中で気づいた事は、職員同士で共有し維持するように努めている。また、その他にも色々な事をやって頂くように心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議にて職員同士で意見を出し合い、出された意見はケアに取り入れている。職員会議以外にも日頃より、より良いケアを目指し、職員同士、ご家族とも話し合いを行っている。	月1回の職員会議にて職員同士で意見を出し合い、出された意見はケアに取り入れている。職員会議以外にも日頃より、より良いケアを目指し、職員同士、ご家族とも話し合いを行っている。	入居時は、本人、家族、関係者から今後の生活に向けての意向や生活の情報を得て介護計画を作成している。1ヶ月位で職員会議で検討し、現状にそぐわない場合は再度協議している。計画を変更する場合は本人、家族に説明している。毎月の会議でモニタリングし6か月で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個人記録に、実践、結果、気づきを書きつつ、職員どうしで小さな事から話をして、問題点を導きだし、見直しに努めている。	日々個人記録に、実践、結果、気づきを書きつつ、職員どうしで小さな事から話をして、問題点を導きだし、見直しに努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度生まれたニーズには、臨機応変に対応できるように努力しているが、難しい部分もあるため柔軟な対応ができるように取り組んでいきたい。	その都度生まれたニーズには、臨機応変に対応できるように努力しているが、難しい部分もあるため柔軟な対応ができるように取り組んでいきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年ですと、運営推進会議にて、地域の方より作品作りや慰問等の話をして頂いている。昨年は、婦人部の慰問が1度あったが、コロナが終息したら、これからもお願いして実現できるように取り組んで行きたい。	例年ですと、運営推進会議にて、地域の方より作品作りや慰問等の話をして頂いている。昨年は、婦人部の慰問が1度あったが、コロナが終息したら、これからもお願いして実現できるように取り組んで行きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご家族から、かかりつけ医をお聞きして今後はどうしていくか相談し、変更時には、スムーズに移行できるよう支援している。入所後もご家族対応の際には、職員が付き添いしたり、日頃の状況や気になる点をお伝えし、何か気になる点があれば、すぐに医師に連絡するようにしている。	入所時にご家族から、かかりつけ医をお聞きして今後はどうしていくか相談し、変更時には、スムーズに移行できるよう支援している。入所後もご家族対応の際には、職員が付き添いしたり、日頃の状況や気になる点をお伝えし、何か気になる点があれば、すぐに医師に連絡するようにしている。	入居前からのかかりつけ医を受診している方もいるが、ほとんどの利用者が法人のクリニックを主治医として職員の送迎で定期受診している。また、同クリニックの医師の定期的な訪問診療があり、利用者の健康管理をしている。受診の際は日頃の記録を持参し医師の指示を受けている。訪問歯科を受けている方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の気になる点はすぐに、管理者、ケアマネに報告、相談し、何かあれば直ぐに医師に相談し対応している。	介護職員は、日常の気になる点はすぐに、管理者、ケアマネに報告、相談し、何かあれば直ぐに医師に相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には施設生活を口頭、書面で情報提供し、疑問点があれば連絡を取り合っている。施設での受け入れ可能な状態を伝え、早期に退院できるようにいつでも受け入れできる旨伝えている。	入院時には施設生活を口頭、書面で情報提供し、疑問点があれば連絡を取り合っている。施設での受け入れ可能な状態を伝え、早期に退院できるようにいつでも受け入れできる旨伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化、終末期になった場合に、施設でできる事と限界を説明し、ご本人、ご家族がどうしていくか時間をかけ考えて話し合えるようお伝えしている。	契約時に、重度化、終末期になった場合に、施設でできる事と限界を説明し、ご本人、ご家族がどうしていくか時間をかけ考えて話し合えるようお伝えしている。	入居時は、本人、家族に重度化や終末期について事業所でできることについて説明している。利用者の体調の変化がある場合は本人、家族、関係者を交えて主治医に相談する場を設けて方向を検討している。開所後浅いので、看取りの経験はないが今後は医療との連携や職員研修、マニュアルの整備等を検討していく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に5回行う内部研修の中で、現役の救急指導員による救急法の研修を毎年行い、内部の講師による緊急時の対応について学んでいる。	年に5回行う内部研修の中で、現役の救急指導員による救急法の研修を毎年行い、内部の講師による緊急時の対応について学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回、火災、地震、水害等想定した避難訓練を実施している。訓練前には、職員、利用者様に向け講話を行い、適切な対応をお伝えしている。運営推進会議でも議題に取り入れ、ご家族に災害時地域協力者になって頂いている。	年に数回、火災、地震、水害等想定した避難訓練を実施している。訓練前には、職員、利用者様に向け講話を行い、適切な対応をお伝えしている。運営推進会議でも議題に取り入れ、ご家族に災害時地域協力者になって頂いている。	昨年は火災、地震、水害、夜間を想定した避難訓練を5回実施した。訓練実施前には利用者や職員に講和を行い訓練の内容等について伝えている。避難時間を確認し、訓練の参考になっている。運営推進会議をととして地域の協力を得る方法を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、職員には何気ない言葉でもプライバシー、尊厳を傷付ける事を常に話し、丁寧な言葉かけを心掛けている。	一人一人を尊重し、職員には何気ない言葉でもプライバシー、尊厳を傷付ける事を常に話し、丁寧な言葉かけを心掛けている。	言葉遣いや呼称に配慮している。トイレ、入浴、居室に入る際のノックや入口を閉めるという日常的な行為について新人研修で実際に体験し、利用者の不快感を理解できるようにしている。書類や申し込み書等個人情報周囲の目に触れないように徹底し、管理している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より本人の思いや希望が話しやすい問いかけを行うよう心掛けている。何事も自己決定しやすいように、選択肢をお伝えして対応している。	日頃より本人の思いや希望が話しやすい問いかけを行うよう心掛けている。何事も自己決定しやすいように、選択肢をお伝えして対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日によって利用者様の希望をお聞きしたり、レクリエーションや散歩等は参加の有無をその都度お聞きし、利用者様のペースに沿って支援するよう心掛けている。	その日によって利用者様の希望をお聞きしたり、レクリエーションや散歩等は参加の有無をその都度お聞きし、利用者様のペースに沿って支援するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の際には、女性にはお化粧をしたり、日頃より洋服は選んで頂いたり、整容の声掛けを行っている。買い物ツアーを行った折には、自身で洋服を選んで買って頂いている。	行事の際には、女性にはお化粧をしたり、日頃より洋服は選んで頂いたり、整容の声掛けを行っている。買い物ツアーを行った折には、自身で洋服を選んで買って頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	火曜日と金曜日の買い物の際には、利用者様に食べたい物をお聞きして、リクエストにてメニューを決めたり、一緒に家事活動やお菓子作りをする事で、食の楽しさを共有している。	火曜日と金曜日の買い物の際には、利用者様に食べたい物をお聞きして、リクエストにてメニューを決めたり、一緒に家事活動やお菓子作りをする事で、食の楽しさを共有している。	担当職員が献立を作りスーパーで食材を購入している。調理は皮むき、刻み、食器拭き等出来る事を利用者も一緒に行っている。火曜日金曜日は利用者の希望メニューを聴いて献立を決めている。イベントの食事やおやつ作りは協力して行い、利用者も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個人に合わせて提供し、水分をなかなか摂れない方には、好きなゼリー、アイス等に対応している。	食事は個人に合わせて提供し、水分をなかなか摂れない方には、好きなゼリー、アイス等に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人に合わせて口腔ケアを行い、義歯の方は夜に洗浄させて頂いている。	毎食後個人に合わせて口腔ケアを行い、義歯の方は夜に洗浄させて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のペース、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンに合わせ、なるべくおむつ等にならないように声掛けや支援を行っている。排泄の状態の把握が必要な利用者には、排泄チェック表を付け、バットもできるだけ小さい物に変えるように職員同士で検討している。	個人の排泄パターンに合わせ、なるべくおむつ等にならないように声掛けや支援を行っている。排泄の状態の把握が必要な利用者には、排泄チェック表を付け、バットもできるだけ小さい物に変えるように職員同士で検討している。	排泄リズムは日誌で確認し、誘導が必要な方は職員が関わっている。リハビリパンツ使用の方がほとんどだが、トイレでの排泄を促し、出来るだけ個々の方の排泄パターンに合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず自分で排泄するよう、冷たい牛乳を提供したり、トイレ誘導時に腹部マッサージ等を行い、カンでもらうよう、声掛けを行っている。	薬に頼らず自分で排泄するよう、冷たい牛乳を提供したり、トイレ誘導時に腹部マッサージ等を行い、カンでもらうよう、声掛けを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望があれば、入浴できるよう努力している。入浴拒否をされる方には、無理強いせず、気持ちよく入って頂けるように、時間をかえたり、職員を変えたりして、声掛けを工夫している。	個人の希望があれば、入浴できるよう努力している。入浴拒否をされる方には、無理強いせず、気持ちよく入って頂けるように、時間をかえたり、職員を変えたりして、声掛けを工夫している。	午前と午後入浴でき、一人の方が週に2回位のペースで入浴している。時間や回数にこだわらず利用者の希望に応じて支援し、入浴拒否される場合もその方のペースに合わせて無理強いすることなくケアしている。冬至のゆず湯を楽しんだり、個別のシャンプーやソープを使用している方もいる。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム めだかの学校 高畑**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい事を言えない利用者様もいるので、様子を見て声掛けを行い、夜は就寝時間を決めず、その方の思いに添うように行っている。	休みたい事を言えない利用者様もいるので、様子を見て声掛けを行い、夜は就寝時間を決めず、その方の思いに添うように行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のケース記録に薬の説明書がはさんであり、職員がいつでも見れるようになっている。変更があった場合には、申し送りのノートに書いて情報共有している。	一人一人のケース記録に薬の説明書がはさんであり、職員がいつでも見れるようになっている。変更があった場合には、申し送りのノートに書いて情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意なこと、好きな事を活かせるように生活歴を確認しながら声掛けをし、一緒にを行い、自分の役割と思っで頂けるように努力している。	個人の得意なこと、好きな事を活かせるように生活歴を確認しながら声掛けをし、一緒にを行い、自分の役割と思っで頂けるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃の会話でラーメンが食べたいと要望があったさいには、目の前にあるラーメン屋さんで数十食作って頂くなど、地域の協力も得ながら、ご家族と相談を行い、外出ができるように、支援を行っている。	日頃の会話でラーメンが食べたいと要望があったさいには、目の前にあるラーメン屋さんで数十食作って頂くなど、地域の協力も得ながら、ご家族と相談を行い、外出ができるように、支援を行っている。	職員は利用者との会話をとおして外出や外食等の要望を聞き取り、家族の協力も得ながら支援している。コロナ禍で外出自粛となっている為これまでのようにできないが、事業所の車でドライブし桜の花見をしたあとお寿司を食べたり、事業所周辺の散歩で気分転換する等利用者が楽しめる工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際には、利用者様にお金を払って頂いたり、個人で財布を持っている方には、そこから自分で支払って頂く等、自立した生活を意識して支援している。	買い物に行った際には、利用者様にお金を払って頂いたり、個人で財布を持っている方には、そこから自分で支払って頂く等、自立した生活を意識して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望によって、ご家族に電話を掛けたり、年に何回かは、ご家族に手紙を書く機会を設けている。	利用者様の要望によって、ご家族に電話を掛けたり、年に何回かは、ご家族に手紙を書く機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、利用者様と毎日掃除をしたり、一緒に作った飾りを置いたり、季節ごとの花等を飾り、工夫している。	共有の空間は、利用者様と毎日掃除をしたり、一緒に作った飾りを置いたり、季節ごとの花等を飾り、工夫している。	各ユニットは同じ創りになっていてフロアを囲むように居室が並んでいる。大きなテーブルやソファが置かれ、家族との面会や利用者がくつろぐ場所となっている。壁には利用者の作品が飾られ活動の様子が窺える。トイレや浴室は広々として使い易い。フロアや廊下は利用者職員が協力して清掃し、清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい時には、個々に、フロアと居室を歩き来し、本人がしたい事を行っている。また、気の合った利用者様同士は、利用者様の意思と一緒に行動したり、一つの部屋に集まり話をしている事もある。	一人になりたい時には、個々に、フロアと居室を歩き来し、本人がしたい事を行っている。また、気の合った利用者様同士は、利用者様の意思と一緒に行動したり、一つの部屋に集まり話をしている事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みのある家具や寝具、写真などを持ってきて頂いている。	居室には、馴染みのある家具や寝具、写真などを持ってきて頂いている。	居室は全室フローリングでベッド、カーテン、吊戸棚、整理ダンス、エアコンは備え付けてある。寝具は使用していた好みの物を持ち込み家族写真、テレビ等も配置して、その人らしい部屋になっている。陽当たりもよく、居心地良く過ごせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアが広く空間があることによって、車椅子の方でも自操ができたり、居室に名札を付けたりと、工夫をしている。	フロアが広く空間があることによって、車椅子の方でも自操ができたり、居室に名札を付けたりと、工夫をしている。		